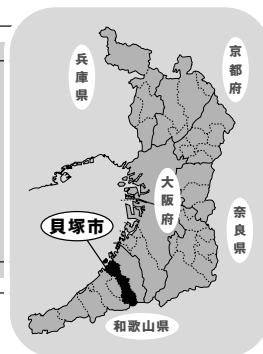


わたしのまちのPR

ピーアール



貝塚市編

貝塚市は、大阪の都心部と和歌山市のほぼ中間にあり、西側は大阪湾、東側には和泉山脈を擁し、和泉葛城山から二色の浜まで流れる近木川^{こぎがわ}を中心に、山・川・海と連続性をもった市域を形成しています。こうした自然資源に恵まれた環境のもと、昭和18年に、府内9番目の市として市制施行しました。

地域の歴史は古く、奈良時代に創建された水間寺や中世の自治都市であった寺内町^{じないまち}などの歴史的資源、太鼓台^{たいこだい}やだんじり祭などの伝統行事とともに、つけ櫛などの伝統産業、近代以降に発展した繊維・ワイヤロープといった地場産業など、独自の文化や産業を受け継いでいます。

この貝塚市の特徴や強みといった事について、都市政策部企画課長の龍神さんにお話をお聞きしてきました。



本日はどうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが、貝塚市の豊かな自然環境における見どころといった点について、教えていただけますか。

よろしくお願いいたします。

貝塚市の自然で特に紹介したいところは、山間部の葛城山ブナ林と海浜部の二色の浜です。

葛城山のブナ林は、大正12年に国の天然記念物に指定されたブナの原生林です。ブナは、本来、標高の高い冷涼な気候帯に生育するものですが、このブナ林は、南限に近く標高約800メートルの低地の原生林として、都市近郊にも関わらず、近代まで奇跡的に残っており、新緑、紅葉など四季折々で楽しむことができます。貝塚市葛城緑の少年団の協力でごみ

を拾いながら頂上をめざす「葛城山クリーンハイキング」といった活動などにより、大切に保全されています。

加えて、その麓には、天然温泉の入浴施設を備えた「そぶら・貝塚ほの字の里」という宿泊も可能な農林業体験施設があり、田植えやしいたけ狩り、昔ながらの手法による炭窯での炭焼きや木工教室など、自然の中でさまざまな体験ができます。

そぶら・貝塚ほの字の里



また、二色の浜は、帆船日本丸の実物大のマストをシンボルマークとしており、まちを代表する観光スポットで、市民憩いの場になっています。名前の由来となった白い砂浜と青い松林が美しい景観をお

二色の浜海岸



りなす一方で、都心からの交通アクセスが良いこともあって、海水浴や潮干狩り、マリンスポーツなどを楽しむ人々で賑わう場所となっています。

そして、貝塚の自然については「自然遊学館」でも学ぶことができます。

アンモナイトをかたどったこの施設では、ブナ林のジオラマや里山の風景が再現され、また、大阪湾の魚貝類や近木川河口の干潟に生息するカニが飼育されていたりと、貝塚の自然を丸ごと集めています。

自然遊学館



そして同館を拠点に近木川をめぐる活動や、自然生態園づくりなど、市民自らの自然保護に関するボランティア活動が活発に行われています。

まちを挙げて、自然を大切に守っていることが伺えますね。

次に歴史・文化といったあたりについて、教えてくださいませんか。

歴史・文化という点では、やはりがんせんじ願泉寺を中心に形成されたじないまち寺内町の町並みですね。

寺内町は、中世末期、願泉寺を中心に形成された

寺内町の町並み



自治都市であり、今なお、小路のところどころにある土蔵や格子戸などが、かつての繁栄ぶりを物語っています。

この願泉寺は、本堂、表門、太鼓堂が貴重な近世建築として国の重要文化財の指定を受け、また、大阪府指定文化財の釣鐘は鎌倉時代のもので、当時の面影を残しています。場所は南海本線貝塚駅の近くです。(今月号の末尾「大阪あちこち」で詳しく紹介)

また、太鼓台祭りやだんじり祭りも、伝統行事として受け継がれ、毎年大いに盛り上がります。

太鼓台祭りは、7月中旬に、悪疫退散を祈願する貝塚寺内町感田神社の夏祭で、「ペーラ ペーラ ペラ ショッショ」の威勢よい掛け声とともに、重さ1トン半の7台のふとん太鼓が寺内町を練り歩きます。

だんじり祭りは、10月上旬に、五穀豊穡を祈願する秋祭りで、勢いよく交差点を曲がる「やりまわし」がみどころです。総数21台のだんじりが市内各所に分かれて駆け巡る迫力は見ものですよ。

太鼓台祭り



だんじり祭り



また、少しおもしろいところで、貝塚には、江戸時代、独学で望遠鏡の製作法を学び、日本初の天体

観測用望遠鏡を作り上げた^{いわはしぜんべい}岩橋善兵衛という人物がおり、この善兵衛の業績をたたえた「善兵衛ランド」という施設があります。

ここは、本格的な天体観測施設で、口径60センチという府内最大級の望遠鏡があり、6,900万個もの星を観測できます。また、江戸時代の善兵衛作の望遠鏡の展示室などもあります。伊能忠敬が日本地図を作れたのも、善兵衛の望遠鏡があったからこそと言われているんですよ。

観測会や実習会など、たくさんの市民が利用するとともに、講座や講演会など、宇宙というロマンを題材に学習の機会も設けられています。

善兵衛ランド・望遠鏡



歴史と伝統がしっかりとまちの中で大切に継承されているといった感じですね。

その他にも、江戸時代からの伝統産業である和泉櫛（つげ櫛）が挙げられます。

貝塚はわが国最古の産地であり、全国シェアのほとんどを占めています。使い込むほどに馴染む質感

つげ櫛



と素朴な手触り、通りの良さを持つ木櫛の細工も見事ですよ。

しかし、熟練の技が要求されるため、現在、すべての工程を手作業でこなせる職人は少なく、それらが家内工業であることや職人の高齢化により、年々生産額が低下し、今後の継承が危ぶまれています。

今後、ITの活用などによる販路開拓や、伝統技術の保持・継承を支援するなど、自立的な発展を促進していく必要があると考えています。

貝塚市の産業振興において、特徴的なものにはこういったものがありますか。

貝塚市には、「二色の浜産業団地」があります。

「二色の浜産業団地」は、二色の浜環境整備事業の一環として大阪府とともに昭和62年から企業誘致を開始し、現在、すべての区画分譲を終え、107社が操業しており、貝塚市の産業発展を担ってきました。

さらに、二色南町地区と新貝塚埠頭地区という、同産業団地周辺の未利用地であった地区についても、平成13年に大阪府より産業集積促進地域として指定を受けるとともに、貝塚市も産業集積拠点として指定し、企業誘致を進めました。二色南町地区においては、株式会社国華園、三洋電機株式会社や明治乳業株式会社などの大手企業が進出し、また新貝塚埠頭地区においても、平成18年4月現在、10社が進出しており、整備済の区画について、企業誘致が完了しています。

企業誘致の成功の鍵はどんなところにあるのでしょうか。

同産業団地は、交通の利便性や流通に配慮した工場配置により、緑に囲まれた良好な操業環境が保たれてきたことや、府の不動産取得税の軽減措置と合わせて、固定資産税に相当する額を3年間にわたり貝塚市産業集積促進奨励金として交付したほか、市長自らのトップセールスなど、市を挙げて取り組んだ成果です。

また、本年4月には、明治乳業が「ヨーグルト館」をオープンし、家族連れなどの来場者の他、学校と

の連携強化による工場等の見学会を積極的に実施するなど、子どもたちに地域産業に対する理解を深めてもらう機会を創出しています。市としても、市民と企業とのネットワークづくりの支援に努めていきたいと考えています。

ところで、貝塚といえば、バレーボールのまちとして有名ですね。

東京オリンピックで金メダルを獲得したニチボー貝塚“東洋の魔女”（後のユニチカ）女子バレーボールチームのまちとして、古くからバレーボールが市民に深く浸透し、愛され、市のアイデンティティとなっています。

ユニチカバレーボールチームが平成12年の東レ（滋賀県）にチームごと移籍し、貝塚市での46年間の歴史に幕を閉じましたが、その3年後の平成15年にユニチカ体育館が、（財）日本バレーボール協会により「JVA貝塚ナショナルトレーニングセンター」（以下、トレセンという。）として再開されました。

そこで再び“バレーボールのまち”として活性化を図るべく、平成16年度に様々な人々が交流する、バレーボールを活かしたまちづくりの推進を市の方針として決定しました。

これにより、市はバレーボールのまちにちなんだロゴ・標語の募集や、バレーボール広報紙の「あたっく」の発行、そして全国都道府県対抗中学バレーボール大会の誘致や運営に取り組みました。また、平成17年から実施しているトレセン指導者による「小学生バレーボール教室」と全日本チームによる公開練習の見学事業も進めています。

「バレーボールのまち貝塚」ロゴ



「バレーボールのまち貝塚」標語

『希望のトス 未来にアタック 貝塚市』

このような“バレーボールのまち”の推進により、地元の和菓子店では、「バレーボールもなか」が製

造販売されたり、市内の多くの商店が全日本代表チームの応援のほりを掲げたりして、地域の活性化につながっています。

さらには、平成17年度から他のスポーツ競技団体に先駆けて、「バレーボールアカデミー」が（財）日本バレーボール協会により開設されました。同アカデミーでは、未来のオリンピック選手を目指す、全国から選抜された女子中学生選手が、アカデミー生として、トレセンで日々練習を重ねています。

アカデミー生は、遠く親元を離れて、貝塚市で生活し、貝塚市内の中学校に通っていることから、PTAは彼女たちに、中学校での昼食のお弁当を作って、応援しています。また、市体育協会をはじめ、全日本チームを応援する市民の「サポーターズクラブ」も、休日にアカデミー生とのみかん狩りやバーベキューを催すなど、交流が深められています。

昨年12月に行われた全国中学生大会では、市民ボランティアの皆さんが豚汁やコーヒーを振舞うなど大会運営を支え、全国から貝塚市に集まった来場者から「人の温かみを感じた」「また貝塚市にきたい」との声をいただいています。

さて、最後になりますが、貝塚市の今後のまちづくりの方向性などについて、一言お願いできますか。

本年4月、第4次貝塚市総合計画がスタートしました。

基本構想において、まちづくりの理念を「元気あふれる みんなのまち 貝塚」と決めました。

新たな総合計画の下、わがまちが誇る葛城山から二色の浜までつながる豊かな自然と、古より培われた地域の歴史・文化を守り、活かすとともに、より一層いきいきと暮らしやすい元気あふれるまちにするため、市民と行政が力を合わせてまちづくりを進めていきたいと考えています。

これからも、市民が誇りを持てる貝塚市ならではの魅力をますます向上され、元気あふれるまちづくりが進められることを期待しています。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。